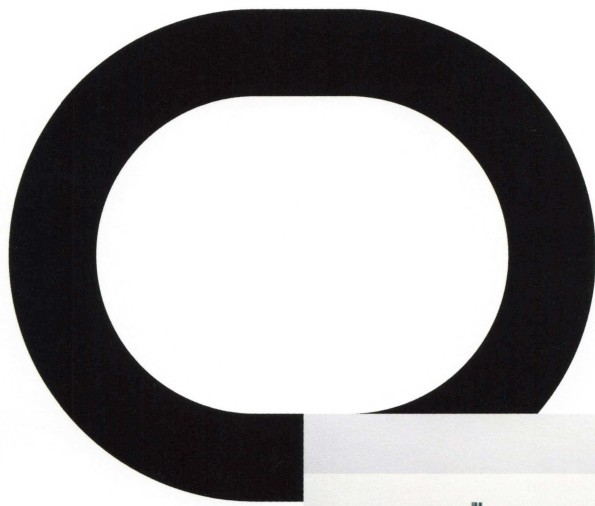


ブライアン・イーノ

ジェネラティヴ・ドキュメンタリー



監督:ギャリー・ハストウィット

字幕監修:ピーター・バラカン

字幕翻訳:坂本麻里子

配給:東急レクリエーション/ビートインク

enofilm.jp

ブライアン・イーノのジェネラティヴ・ドキュメンタリー映画『Eno』

観るたびに内容が変わる、映画の常識を覆す革新的映画体験！

各地で完売続出、さらなる追加上映が決定！

Eno.

監督:ギャリー・ハストウィット

字幕監修:ピーター・バラカン

字幕翻訳:坂本麻里子

配給:東急レクリエーション/ビートインク



音楽、そしてアートにおける「革新」の概念そのものを体現し続けてきた伝説のアーティスト、ブライアン・イーノ。ミュージシャン、プロデューサー、ヴィジュアル・アーティスト、そして活動家、そのすべてにおいて時代の先を走り続け、50年以上にわたり明確なビジョンを提示してきた唯一無二の存在。そんなイーノの真髄に迫る、世界初・完全ジェネラティヴ・ドキュメンタリー映画『Eno』。ギャリー・ハストウィット監督による本作『Eno』は、ブライアン・イーノへの長時間のインタビュー、そして500時間を超える貴重なアーカイブ映像を組み合わせ、アーティストのブレンダン・ドーズと共同開発した自動生成システム「Brain One(ブライアン・イーノのアナグラム)」を導入。観るたびに構成や内容が変化する映画の常識を覆す全く新しい体験を実現。これまでの限定上映では、各地で完売が続出。大好評を受け、今後も日本各地での拡大上映が予定されています。変化し続けるイーノのように、観るたびに異なる“一度きり”の映画体験を、ぜひ劇場でご体感ください。

音楽やアートに関心があればぜひ見て欲しい、
本当に興味の尽きない作品です。

- ピーター・バラカン

この映画を観て、激しい激励を受けた気がする。
フィーリングとフィジカルによって作品は生まれる。
そうか、今のままの自分のやりかたでいいんだと。

- 鈴木慶一

膨大な可能性がもたらす、
あなたの/わたしの/すべてのための、無限の播種。
すべての考える人へ。

- agraph/牛尾憲輔

衝動と想像力があれば
いつまでもクリエイションは止まらない
ENOからのメッセージを受け取った

- YOSHIROTTEN

BRIAN ENO | ブライアン・イーノ

ミュージシャン、プロデューサー、ヴィジュアル・アーティスト、アクティビスト。1970年代初頭、イギリスのバンド、ロキシー・ミュージックの創設メンバーの一人として世界的に注目を集め、その後、一連のソロ作品や多様なコラボレーション作品を世に送り出す。プロデューサーとしては、トーキング・ヘッズ、ディエゴ・U2、ローリー・アンダーソン、ジェームス・ジェーン・シベリ、コールドプレイなどのアルバムを手がけ、さらに、デヴィッド・ボウイ、ジョン・ハッセル、ハロルド・パッド、ジョン・ケイル、デヴィッド・バーン、グレース・ジョーンズ、カール・ハイド、ジェームス・ブレイク、フレッド・アグエイン、そして実弟ロジャー・イーノとのコラボレーションでも知られる。2025年夏には、ピーティ・ワルフとのコラボ作品2作をリリース予定。これまでに発表されたソロ作品およびコラボ作品は60タイトルを超え、現在も増え続けている。音楽活動と並行して、光や映像を用いたヴィジュアル・アートの創作にも力を注ぎ、世界各地で展覧会やインスタレーションを開催。ヴェネツィア・ビエンナーレ、サンクトペテルブルクのマーブル・パレス、北京の日壇公園、リオデジャネイロのアルコス・ダ・ラバ、シドニー・オペラハウス、そして記憶に新しい京都での大規模なインスタレーションなど、世界中で多彩なアート・エキシビションを展開している。また、長期的視野で文化的施設や機関の基盤となることを目指す「Long Now Foundation」の創設メンバーであり、環境法慈善団体「ClientEarth」の評議員、人権慈善団体「Videre est Credere」の後援者も務める。2021年4月には「EarthPercent」を立ち上げ、音楽業界からの資金を集めて、気候変動の緊急事態に取り組む有力な環境慈善団体への寄付を行っている。そして2023年、その生涯にわたる功績が称えられ、ヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門よりゴールデン・ライオン賞を受賞。

追加上映情報

『Eno』公式サイト ▶▶ <https://enofilm.jp> ▶▶

